慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	市民の健康支援のための価値互酬型サービスを支える知識共同体の構築
Sub Title	Constructing knowledge communities to support citizens' health
Author	池谷, のぞみ(Ikeya, Nozomi) 高山, 智子(Takayama, Tomoko) 松本, 直樹(Matsumoto, Naoki) 田村, 俊作(Tamura, Shunsaku) 須賀, 千絵(Suga, Chie) 越塚, 美加(Koshizuka, Mika) 八巻, 知香子(Yamaki, Chikako) 三輪, 眞木子(Miwa, Makiko) 桂, まに子(Katsura, Maniko)
Publisher	
Publication year	2020
Jtitle	科学研究費補助金研究成果報告書 (2019.)
JaLC DOI	
Abstract	市民の健康支援という観点から, 健康医療情報を入手し, 適切な治療を受けられる環境を身近な地域に作るためには, 共通の目的を持つ専門家の組織を超えた知識共同体を構築することの有効性を, 図書館情報学と国立がん研究センターの研究者が共同で二種類の知識共同体の構築を通じて提示した。一つ目の地域の医療機関・行政機関・公共図書館の担当者の知識共同体は, 三者が参加するシンポジウムを全国で開き交流の機会を持つことで実現し, もう一つの知識共同体は, 健康医療情報を市民に届ける全国の公共図書館, 患者図書室の担当者が選書情報をwebで共有できるしくみを作って実現した。両者は現在機能して市民の健康支援に貢献しつつある。 To support citizens' health, constructing knowledge communities -- made up of professionals from different organizations in local communities, who share the same objectives -- should effectively develop an environment in which citizens can acquire quality health information and obtain adequate treatment. To demonstrate this, researchers collaborated to construct two kinds of knowledge communities. One consists of members from medical institutions, local authorities, and public libraries. To build this community, symposiums were organized in various parts of Japan, creating opportunities for people from different institutions to meet and to achieve the same objectives in their respective local areas. The second community consists of librarians from public libraries and patient libraries across Japan. A web-based system was created for exchanging information about books on health and medicine so that librarians could refer to this information to support citizens' health in their areas.
Notes	研究種目 : 基盤研究 (B) (一般) 研究期間 : 2015 ~ 2018 課題番号 : 15H02788 研究分野 : 図書館情報学、エスノメソドロジー、知識社会学
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KAKEN_15H02788seika

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月 ２５ 日現在

機関番号：３２６１２
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2015～2018
課題番号：１５Ｈ０２７８８

研究課題名（和文）市民の健康支援のための価値互酬型サービスを支える知識共同体の構築

研究課題名（英文）Constructing knowledge communities to support citizens' health

研究代表者
池谷　のぞみ（Ikeya, Nozomi）

慶應義塾大学・文学部（三田）・教授

研究者番号：１０２９７７２３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　10,210,000円

研究成果の概要（和文）：市民の健康支援という観点から，健康医療情報を入手し，適切な治療を受けられる環境を身近な地域に作るためには，共通の目的を持つ専門家の組織を超えた知識共同体を構築することの有効性を，図書館情報学と国立がん研究センターの研究者が共同で二種類の知識共同体の構築を通じて提示した。一つ目の地域の医療機関・行政機関・公共図書館の担当者の知識共同体は，三者が参加するシンポジウムを全国で開き交流の機会を持つことで実現し，もう一つの知識共同体は，健康医療情報を市民に届ける全国の公共図書館，患者図書室の担当者が選書情報をwebで共有できるしくみを作って実現した。両者は現在機能して市民の健康支援に貢献しつつある。

研究成果の学術的意義や社会的意義
地域包括ケアを実現する文脈において，従来あまり論じられることがなかったのが，情報の側面からの健康支援である。地域包括ケアの文脈において市民は，一方的に支援されるだけでなく，自ら情報を得て自分の価値観にあったケアを受けながら可能な限り住み慣れた地域で過ごすことが想定されている。本研究では，その都度必要な健康医療情報を地域で得られる環境を作るために，組織を超えた二種類の知識共同体を構想し，実際に構築した。これらの知識共同体が今後機能し，組織を超えて必要に応じて市民が質の高い健康医療情報を得られる環境が作られることで，地域包括ケアの考え方を実現に近づけることに寄与するであろう。

研究成果の概要（英文）：To support citizens’ health, constructing knowledge communities -- made up of professionals from different organizations in local communities, who share the same objectives -- should effectively develop an environment in which citizens can acquire quality health information and obtain adequate treatment. To demonstrate this, researchers collaborated to construct two kinds of knowledge communities. One consists of members from medical institutions, local authorities, and public libraries. To build this community, symposiums were organized in various parts of Japan, creating opportunities for people from different institutions to meet and to achieve the same objectives in their respective local areas. The second community consists of librarians from public libraries and patient libraries across Japan. A web-based system was created for exchanging information about books on health and medicine so that librarians could refer to this information to support citizens’ health in their areas.

研究分野：図書館情報学、エスノメソドロジー、知識社会学

キーワード：健康医療情報　エスノメソドロジー　公共図書館　がん相談支援センター　ヘルスリテラシー　課題解決支援　サービスデザイン　患者図書室

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

本研究プロジェクトが開始された平成 27 年の時点においては、地域の市民の健康支援のために医療関係機関と公共図書館が連携することはほとんどなされていなかった。しかしながら、限られた資源のなかで、市民が適切な知識と情報を得て自律的に医療を受け、療養し、健康維持ができるようにすることがますます求められるようになってきた。これを実現するためには、医療機関のみに依存するのではなく、地域の各機関が連携して市民に対してアプローチしてヘルスリテラシーを身につけるようにしていくことが求められる。

地域の医療関係機関として、特に市民と深く関係があるのは保健所やがん相談支援センターである。しかし両者は市民にとって敷居が低いとは言えず、特に後者については認知度が高くないことが知られていた。

（1）地域市民健康支援のための知識共同体

そこで、公共図書館は未病の人も、患者・家族も含めてあらゆる人々が気軽にアクセスできる地域の情報拠点として位置付けられることに着目した。公共図書館の健康医療情報を担当する職員と保健所などを含む地域の健康医療行政担当者、がん相談支援センターの相談員等による知識共同体を構築することにより、ヘルスリテラシーの向上、がん検診の促し、より医療的な相談の必要な人々のがん相談支援センターへの橋渡しなどがスムーズに行なえ、地域の資源を有効に活用する機会を共創することをめざすことが必要であると考えた。

（2）一般向け健康医療情報選定のための知識共同体

質の高い健康医療情報を選んで市民に届けることは重要であるが、現実には専門性が高い領域であることから、公共図書館や、司書のいない患者図書室では選書に不安を抱えているところが少なくない。実際には、一般向けに書かれた健康医療領域の図書は増加傾向にあるが、この一般向けのものには特定治療やクリニックの宣伝を意図したものも混在しており、そこに選書に関わる困難の一端がある。そこで、医学図書館員でなおかつ患者図書室のために選書を行なっている司書や、患者図書室の司書、公共図書館で健康医療情報を扱う司書を中心に、選書した図書の情報を Web を通じて共有し、広く選書に役立てながら、なおかつ選書の観点やサービスの仕方を共有する知識共同体を作ることが必要であると考えた。

２．研究の目的

がん相談支援センターと自治体の健康医療行政の部署、そして公共図書館が連携することにより、公共図書館の利用者をがん相談支援センターへ橋渡ししたり、がんの情報を提供する講演会を開催することでヘルスリテラシーを高め、市民が必要なときに適切な知識と情報を得て動けるように手助けができるようにするための、知識共同体の構築のための要件を明らかにするとともに、実際にその構築を試みることを研究の目的とした。

さらに、質の高い健康医療情報を選んで市民に届けることをめざすための知識共同体構築の要件を明らかにすると共に、実際にその共有の方法を検討することを目的とした。

以上を通じて、市民の健康支援を情報をキーワードにしてヘルスリテラシーを高めながら実現するのに必要な要件を、特に組織と専門性を超えた知識共同体の構築を中心として検討するのみならず、その知識共同体構築に向けて、明らかにした要件に基づいてその機会を創出することを試みる。これによって、検討結果の実現可能性の検証をも行なうことを目的としている点がこの研究の画期的な特徴である。

３．研究の方法

（1）市民の健康に関わるニーズと行動の調査

国立がん研究センター市民・患者パネルのメンバーに対して、治療、闘病に関わる課題にどのように対処しているのかをインタビューで調査し、その分析結果から今後の健康医療情報提供のあり方を検討して提言をまとめる。

（2）公共図書館の健康支援サービスの現況調査

先進的なサービスを行なっている埼玉県立久喜図書館を始めとして、全国の積極的に健康医療情報サービスに取り組んでいる公共図書館を訪問調査し、サービス内容のみならず、地域における連携の方法についても必要に応じてヒアリングを行なう。

（3）地域の医療関係機関による健康支援の現況調査

日本全国のさまざまな地域における、健康医療行政部署、がん相談支援センター、病院内の患者図書室などとの連携による健康支援の現況を訪問調査と担当者に対するヒアリングにより明らかにする。

（4）健康支援のための知識共同体の構築検討

二種類の知識共同体、すなわち、1)地域市民健康支援のための知識共同体、2）一般向け健康医療情報選定のための知識共同体の構築へ向けて、上記の調査結果を踏まえながら、その要件をそれぞれに適切な多様なステークホルダーとの検討により、明らかにし、構築の開始を試みる。

４．研究成果

（1）市民の健康に関わるニーズと行動の調査

がん患者・家族の医療情報探索プロセスにおける公共図書館の利用状況と公共図書館サービスへの要望を明らかにし、それらに基づいてがん患者・家族にとって有用な公共図書館の医療健康情報サービスの在り方を考えるために、国立がん研究センターがん対策情報センターの患者・市民パネルメンバーを対象に質問紙調査とインタビュー調査を実施した。インタビュー調査協力者 18 名のうち、「がんの情報」を探すために地域の公共図書館を利用したのは 11 名であった。質問紙の自由回答とインタビューの内容分析結果を、患者・家族からの提案という形で示し、公共図書館を健康医療情報を探せる場としていくために検討すべき点を提示した [1)2)]。

(1)患者を含む非来館者への広報
(2)選書基準の明確化
(3)新しい医療書を揃え古い医療書を除籍
(4)パンフレット類の収集と提供
(5)希少がん情報へのアクセス提供
(6)電子版医療書籍の充実
(7)利用者が探しやすい排架
(8)図書館員が介入しない貸出と返却
(9)患者の情報ニーズを予測したナビゲーション
(10)利用者へのヘルスリテラシー教育
(11)地域図書館ネットワーク拡張による小規模図書館利用者のアクセス改善
(12)病院図書室等との連携

図 1 公共図書館における健康医療情報提供のための提言 [1)]

（2）公共図書館の健康支援サービスの現況調査

最初の 2 年間は、各地における、医療関係機関と公共図書館が連携する自治体を中心に、訪問調査を行なった。病院内の、患者・家族ならびに市民を対象に情報提供を行なう患者図書室と公共図書館を訪問調査し、健康医療情報提供の実態と、連携構築の経緯を明らかにした。

がん対策における法令及び計画において、公共図書館がどのように位置づけられているのか、国と地方レベルで明らかにした [3)]。さらに、公共図書館の蔵書の分析から、医学薬学分野の選書の状況を明らかにした [4)]。

また、国内の公共図書館における医療情報サービスの最近の動向についてレビュー論文を執筆した [5)]。

（3）地域の医療関係機関による健康支援の現況調査

がん相談支援センター、患者図書室のサービスを中心に調査を行ない、各地域における連携状況についても明らかにした。患者図書室のなかには、さまざまな形で公共図書館と連携しているところが少なからずみられた。また、患者図書室には情報提供のみならず、医療機関における施設としての多様な機能や役割が埋め込まれていることがわかった [6)]。

（4）健康支援のための知識共同体の構築検討

①地域市民健康支援のための知識共同体

全国の、各地域ブロックにおいて健康支援のための知識共同体の潜在的ステークホルダーである、公共図書館の職員、がん相談支援センターの相談員、患者図書室の担当者、地域の健康医療行政担当者に参加してもらう形で、図書館とがん相談支援センターとの連携ワークショップを計 7 回、国立がん研究センターと共に開催した。理念や先進的な連携を実現している事例を共有し、パネルディスカッションを行なうとともに、実際に各地域の参加者でグループにわかれて今後の協働のあり方を話し合い、交流してもらった結果、さまざまな連携が生まれている。

なお、2019 年 9 月に札幌市で開催した会は、本来は前年 2018 年 9 月開催を予定していたものである。開催 1 週間前に北海道で大地震があり、開催中止となった。開催費用を繰越すことにより、翌年開催にこぎつけたものである [7)-14)]。

さらに、この試みをより広く共有するために、図書館総合展においてフォーラムを国立がん研究センターと共に開催した [15)16)]。

②一般向け健康医療情報選定のための知識共同体の構築

市民向けに健康医療情報を提供する際の情報源を適切に選択できるように、全国レベルにおいて、患者図書室、医学図書館、公共図書館の司書を中心としてワーキンググループを作り、知識共同体の構築を通じて選書の情報とそのためのスキルを身につけられるように図った [17)]。既存の Web サービスを組み合わせて工夫しながら協働選書システムのプロトタイプを作った。現

在約 30 名の参加者ですでに 160 冊について選書理由などと共に共有しており、参加者が参照し、ディスカッションも行なわれ、選書の際の観点などが具体的な本の情報と共に共有されている。

なお、この知識共同体では、協働選書システムを通じて、公共図書館において行なうがんに関する展示「身近にがんを考える」のための選書を行なった。50 冊を選書し、一部の図書に対しては添付するポップも作成した。規模にかかわらず、公共図書館で気軽にがんに関する展示が行なえるように、国立がん研究センターの情報冊子・パネルとあわせて巡回展示キットを作成した。このキットを用いて、北海道地区、鳥取県内それぞれの地区内の図書館において順次展示が開催された。

さらに、国立がん研究センターの情報冊子を寄付を募って公共図書館に贈る「がん情報ギフト」について、その効果と課題について発表を行なった [18]。

上述のとおり、北海道の地震により繰越を行なうことで、通算 5 年間の研究期間となった。そのことにより、予定通り全国すべての地域ブロックにおいて健康支援のための、組織を超えた健康支援を実現にむけた知識共同体構築のきっかけを作り、その種をまくことができた。

さらに、健康医療情報選定のための知識共同体についても、検討で終わらせることなく、実際に現在、協働選書を Web 上で参加者が行なっている。延長された 1 年間で、継続して検討を進めたことがこの成果につながっている。

引用文献

1)三輪眞木子，田村俊作，池谷のぞみ，須賀千絵，八巻知香子，高山智子，越塚美加．公立図書館医療健康情報サービスへの提案： がん患者のインタビュー調査から． 薬学図書館． 2017, vol．62，no．1，p.21-31.

2)Miwa, Makiko; Ikeya, Nozomi; Tamura, Shunsaku; Suga, Chie; Koshizuka, Mika; Yamaki, Chikako; Takayama, Tomoko. Cancer Patients' Perceptions and Expectations of Health and Medical Information Services in Japan's Public Libraries. Poster presented at ISIC2016, held at University of Zadar (Zadar, Croatia), September 20-23, 2016.

3）松本直樹; 池谷のぞみ; 高山智子; 田村俊作. がん対策における図書館サービスの位置づけ : 法令および計画の策定に関わる文書の分析から. 日本図書館情報学会春季研究集会発表論文集, 2016, p.9-12.

4）松本直樹；池谷のぞみ；桂まに子. 公立図書館における医学薬学分野の選書分析. 日本図書館情報学会春季研究集会発表論文集, 2017, p.9-12.

5）池谷のぞみ. 国内の公共図書館における健康医療情報サービスの最近の動向. カレントアウェアネス, No.337, 2018, p.20-26.

6)桂まに子; 須賀千絵; 池谷のぞみ; 田村俊作; 三輪眞木子; 八巻知香子; 松本直樹. 患者支援機能から見た患者図書室の多様性. 日本図書館情報学会春季研究集会発表論文集, 2018, p.43-46.

7) 松本直樹. 北から南から 「九州・沖縄地区 図書館&がん相談支援センター連携ワークショップ」の報告. 図書館雑誌, 2017, vol.111, no.4, p.250-251.

8)九州・沖縄地区「いつでも、どこでも、だれでもが、がんの情報を得られる地域づくりをめざして」（福岡県立図書館）（2016 年 1 月 25 日）
https://www.ncc.go.jp/jp/cis/divisions/info/project/pub-pt-lib/20160125/index.html

9)九州・沖縄地区（大分県立図書館）（2016 年 11 月 28 日）「いつでも、どこでも、だれでもが、がん情報を得られる地域づくりの第一歩」(in 大分)
https://www.ncc.go.jp/jp/cis/divisions/info/project/pub-pt-lib/20161128/index.html

10)北日本地区（いわて県民情報交流センター（アイーナ））（2017 年 1 月 23 日）「いつでも、どこでも、だれでもが、がん情報を得られる地域づくりの第一歩」(in 盛岡)
https://www.ncc.go.jp/jp/cis/divisions/info/project/pub-pt-lib/20170123/index.html

11)東海・北陸地区(じゅうろくプラザ（岐阜市文化産業交流センター）)(2017 年 11 月 10 日) 図書館&がん相談支援センター連携ワークショップ「いつでも、どこでも、だれでもが、がんの情報を得られる地域づくりの第一歩」(in 岐阜)
https://www.ncc.go.jp/jp/cis/divisions/info/project/pub-pt-lib/20171110/index.html

12)中国・四国地区（広島国際会議場）（2018 年 12 月 14 日）「いつでも、どこでも、だれでもが、がんの情報を得られる地域づくりの第一歩(in 広島)」
https://www.ncc.go.jp/jp/cis/divisions/info/project/pub-pt-lib/20181214/index.html

13)首都圏地区（都立中央図書館）（2019 年 2 月 1 日）「いつでも、どこでも、だれでもが、がんの情報を得られる地域づくりの第一歩(in 東京)」
https://www.ncc.go.jp/jp/cis/divisions/info/project/pub-ptlib/20190201/20190219164552.html

14)北海道地区（札幌市教育文化会館）（2019 年 9 月 5 日）「いつでも、どこでも、だれでもが、がんの情報を得られる地域づくりの第一歩(in 札幌)」
https://www.ncc.go.jp/jp/cis/divisions/info/project/pub-pt-lib/20190905/20191119152325.html

15)第 18 回図書館総合展の運営委員会主催フォーラム（2016 年 11 月 9 日）
「図書館の健康医療情報コーナーの先にあるもの～医療・福祉側からの期待とこれからの可能性～」https://www.libraryfair.jp/forum/2016/4757

16)第 21 回図書館総合展フォーラム「健康医療情報の地域資源としての公共図書館」（2019 年 11 月 13 日）
https://www.libraryfair.jp/forum/2019/8425

17) 池谷のぞみ; 押田いく子; 後藤綾野; 齋藤晶子; 佐藤晋巨; 須賀千絵; 田村俊作; 柚木聖. 健康医療の協働選書における要件と課題. 第 35 回医学情報サービス研究大会, 2018 年, 8 月 4 日, 国立オリンピク記念青少年総合センター. http://mis.umin.jp/35/program/ab/o-01.pdf

18）須賀千絵; 池谷のぞみ; 桂まに子; 田村俊作; 松本直樹; 三輪眞木子; 八巻知香子. 公共図書館に向けた「がん情報ギフト」の効果と課題. 第 66 回日本図書館情報学会研究大会発表論文集, 2018, 66, p.101-104.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計3件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 池谷のぞみ	４．巻 64（1）
２．論文標題 健康医療分野の実務者との協働に基づく研究の可能性．第65回日本図書館情報学会研究大会シンポジウム記録「研究者が現場と関わりながら研究をすること：医療健康分野で考える」	５．発行年 2018年
３．雑誌名 日本図書館情報学会誌	６．最初と最後の頁 42-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.20651/jslis.64.1_42	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 三輪眞木子，田村俊作，池谷のぞみ，須賀千絵，八巻知香子，高山智子，越塚美加	４．巻 62
２．論文標題 公立図書館医療健康情報サービスへの提案：がん患者のインタビュー調査から	５．発行年 2017年
３．雑誌名 薬学図書館	６．最初と最後の頁 21-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 松本直樹	４．巻 111(4)
２．論文標題 北から南から　「九州・沖縄地区 図書館&がん相談支援センター連携ワークショップ」の報告	５．発行年 2017年
３．雑誌名 図書館雑誌	６．最初と最後の頁 250-251
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計16件（うち招待講演　8件／うち国際学会　5件）

１．発表者名 須賀千絵；池谷のぞみ；桂まに子；田村俊作；松本直樹；三輪眞木子；八巻知香子
２．発表標題 公共図書館に向けた「がん情報ギフト」の効果と課題．
３．学会等名 第66回日本図書館情報学会研究大会
４．発表年 2018年

１．発表者名
桂まに子；須賀 千絵；池谷 のぞみ；田村 俊作；三輪 眞木子；八巻 知香子；松本 直樹

２．発表標題
患者支援機能から見た患者図書室の多様性.

３．学会等名
2018年度日本図書館情報学会春季研究集会

４．発表年
2018年

１．発表者名
池谷のぞみ；押田いく子；後藤綾野；齋藤晶子；佐藤晋巨；須賀千絵；田村俊作；柚木聖

２．発表標題
健康医療の協働選書における要件と課題.

３．学会等名
第35回医学情報サービス研究大会

４．発表年
2018年

１．発表者名
Ikeya, Nozomi

２．発表標題
Ethnomethodological hybrid studies as collaborative engagement with members.

３．学会等名
Workshop: New Developments in Ethnomethodology（招待講演）（国際学会）

４．発表年
2018年

１．発表者名
池谷のぞみ

２．発表標題
ワークの研究における記述とその協働性：医療の文脈における考察.

３．学会等名
関東社会学会第66回年次大会　テーマ部会A「医療現場で働くということ：社会学になにができるか」　（招待講演）

４．発表年
2018年

１．発表者名
Ikeya, Nozomi

２．発表標題
Making modifications to social stocks of knowledge as members’ management of order.

３．学会等名
Australasian Institute for Ethnomethodology and Conversation Analysis (AIEMCA)（招待講演）（国際学会）

４．発表年
2018年

１．発表者名
Ikeya, Nozomi

２．発表標題
Revisiting the EMCA way of studying organizational culture and practices.

３．学会等名
IIEMCA (International Institute for Ethnomethodology and Conversation Analysis)（国際学会）

４．発表年
2019年

１．発表者名
田村俊作

２．発表標題
図書館は地域の課題解決にどのように貢献できるか.

３．学会等名
令和元年度図書館地区別研修(九州・沖縄地区)（招待講演）

４．発表年
2020年

１．発表者名
田村俊作; 新井山ちづる

２．発表標題
図書館と医療機関のパートナーシップ : 互いの強みを活かして市民に健康医療情報 を伝える.

３．学会等名
北海道図書館大会（第60回令和元年度 ）（招待講演）

４．発表年
2019年

１．発表者名
田村俊作

２．発表標題
ヘルスリテラシーと健康医療情報：公共図書館の健康医療情報サービスから考える．

３．学会等名
第18回情報メディア学会研究大会（招待講演）

４．発表年
2019年

１．発表者名
Tamura, Shunsaku

２．発表標題
How Innovation Has Transformed Japanese Public Libraries.

３．学会等名
ALA Annual Conference（招待講演）（国際学会）

４．発表年
2019年

１．発表者名
松本 直樹，池谷 のぞみ，桂 まに子

２．発表標題
公立図書館における医学薬学分野の選書分析．

３．学会等名
2017年度日本図書館情報学会春季研究集会

４．発表年
2017年

１．発表者名
池谷 のぞみ

２．発表標題
健康医療分野の実務者との協働に基づく研究の可能性．

３．学会等名
日本図書館情報学会第65回日本図書館情報学会研究大会シンポジウム（招待講演）

４．発表年
2017年

１．発表者名
松本直樹，池谷のぞみ，高山智子，田村俊作

２．発表標題
がん対策における図書館サービスの位置づけ:法令および計画の策定に関わる文書の分析から．

３．学会等名
2016年度日本図書館情報学会春季研究集会

４．発表年
2016年

１．発表者名
三輪眞木子，田村俊作，池谷のぞみ，須賀千絵，八巻知香子，高山智子，越塚美加

２．発表標題
公共図書館健康・医療情報サービスへの要望 ： がん患者のインタビュー調査から．

３．学会等名
第33回医学情報サービス研究大会

４．発表年
2016年

１．発表者名
Miwa, Makiko; Ikeya, Nozomi; Tamura, Shunsaku; Suga, Chie; Koshizuka, Mika; Yamaki, Chikako; Takayama, Tomoko

２．発表標題
Cancer Patients’ Perceptions and Expectations of Health and Medical Information Services in Japan’s Public Libraries.

３．学会等名
Information Seeking in Context - ISIC2016（国際学会）

４．発表年
2016年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕
＊研究紹介
https://www.gsl.keio.ac.jp/research/spotlight/1/index.html
＊研究紹介：市民の健康支援のための価値互酬型サービスを支える知識共同体の構築（科学研究費助成事業）https://goo.gl/q1BvSi
＊図書館とがん相談支援センターとの連携ワークショップ
https://www.ncc.go.jp/jp/cis/divisions/info/project/pub-pt-lib/index.html
＊第18回図書館総合展「図書館の健康医療情報コーナーの先にあるもの～医療・福祉側からの期待とこれからの可能性」
https://www.ncc.go.jp/jp/cis/divisions/info/project/pub-pt-lib/20161109/index.html
＊第21回図書館総合展フォーラム「健康医療情報の地域資源としての公共図書館」（2019年11月13日）https://www.libraryfair.jp/forum/2019/8425

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	高山　智子 (Takayama Tomoko) (20362957)	国立研究開発法人国立がん研究センター・がん対策情報センター・部長 (82606)	
研究分担者	松本　直樹 (Matsumoto Naoki) (50588655)	慶應義塾大学・文学部（三田）・准教授 (32612)	
研究分担者	田村　俊作 (Tamura Shunsaku) (70129534)	慶應義塾大学・文学部（三田）・名誉教授 (32612)	
研究分担者	須賀　千絵 (Suga Chie) (80310390)	実践女子大学・文学部・講師 (32618)	
研究協力者	越塚　美加 (Koshizuka Mika)	学習院女子大学・国際文化交流学部・教授 (32699)	
連携研究者	八巻　知香子 (Yamaki Chikako) (60392205)	国立研究開発法人国立がん研究センター・がん対策情報センター・室長 (82606)	
連携研究者	三輪　眞木子 (Miwa Makiko) (90333541)	放送大学・教養学部・特任教授 (32508)	
連携研究者	桂　まに子 (Katsura Maniko) (80457902)	京都女子大学・文学部・講師 (34305)	